

(内容)

パリコミューンから現代までに公布された法令、政令、省令など法律制定の背景、各種委員会の審議報告・意見などの文書を収録している。フランスの国内政治、国際政治、ヨーロッパ史を研究する上で欠かせない資料だけでなく大陸法を研究する基礎資料でもある。

6. Government Organization Manuals, 1900～1980

世界各国政治機構要覧シリーズ

マイクロフィッシュ 8708枚

(内容)

米国議会図書館の所蔵文書から厳選された70ヶ国の年鑑、ディレクトリー、便覧、人名録、ハンドブック、組織一覧等を収めた総合コレクションである。

今世紀の世界、国際社会の変革を促し、その歩みを支えた各国の政治・行政の機構・組織に対する最も基本的かつ公的な文書を収録している。

7. The New York Times, 1851～1986 & Index

ニューヨークタイムズ紙

マイクロフィルム 3155リール

索引 128冊

(内容)

ニューヨークタイムズは、19世紀後半から現代に至る政治、文化、経済、社会上の諸事象について広い国際的視野をもち、かつ豊かな情報を伝えている。人文・社会科学の分野において、同紙のもつ資料的価値は高く第一級の資料である。

8. Библиография Японии (ビブリオグラフィヤ・ヤポーニ) 1734～1958

ロシア・ソ連で出版された日本関係文献

マイクロフィルム 726リール

(内容)

本コレクションは、ソ連邦科学アカデミー東洋研究所により編纂、1965年に刊行された「日本関係文献目録(1734-1917)」とその後刊行された「(同文献目録)(1917-1958)」に収録されている1万4千余点の文献のほぼすべてを原本からマイクロ化したものである。

本目録(全2巻)は単行書、全集、双書等で刊行された文献にとどまらず、定期・不定期刊行物、論文、公・私文書、記録、覚書、統計類はもとより大衆的な新聞、雑誌類からも関係論文や記事を網羅的に収録しており、ソ連における日本関係文献ビブリオグラフィーとして最大で最初のものであり、それ自体、研究価値の高い文献といえる。

『大惣本目録』の刊行について

本学が所蔵する「大惣本」とは江戸時代の中頃から明治時代の中頃にかけて、名古屋で営業をつづけた、わが国最大の貸本屋大野屋惣八店、略して「大惣」の蔵書の一部が創設期の京都帝国大学附属図書館によって購入され、整理されたものを指す。3,667部、13,081冊である。本学図書館が開館を間近にひかえて、収書やその整理に忙殺されていた明治32年4月3日から同年4月21日まで5回にわけて納入された。「大惣本」の内容の評価

や京都大学図書館に納入されるにいたった経緯については広庭基介氏(法学部図書室)の詳細な研究「京大『大惣本』購入事情の考察」(「大学図書館研究」No.24)がある。また柴田光彦編著「大惣蔵書目録と研究」本文篇(「日本書誌学大系」27(1))の冒頭にも、同氏による詳細な解説(大惣の廃業、逍遙と不倒、閉店前後、明治32年の整理、その一「京都大学図書館」、その二「国会図書館蔵本」、その三「東京大学蔵本」、その四「筑波大学図書

館蔵本」, その五「不倒旧蔵本——早稲田大学図書館蔵本」などの項目を網羅している)があるの
で、興味をお持ちの方は参照されたい。

ところで、京都大学に納入された当時の「大惣
本」は次のように分類されていた——

- | | |
|----------------------|---------------|
| (1) 随 筆 | (19) 古 銭 書 |
| (2) 物 語 | (20) 随筆写本 |
| (3) 雑 書 ^甲 | (21) 蝦夷漂流記 |
| (4) 雑 書 ^乙 | (22) 故 事 記 |
| (5) 珍 書 | (23) 書 法 |
| (6) 唐 軍 | (24) 字 書 |
| (7) 絵本読本 | (25) 音 韻 |
| (8) 合 卷 | (26) 人物志万宝器物 |
| (9) 古版珍書 | (27) 農 書 |
| (10) 珍書草紙 | (28) 囲 碁 |
| (11) 地誌名所 | (29) 将 棋 |
| (12) 日記紀行 | (30) 写本随筆追加 |
| (13) 道 中 記 | (31) 絵本図絵 |
| (14) 香茶生花 | (32) 医 書 |
| (15) 茶 道 | (33) 西鶴・八文字屋本 |
| (16) 生 花 | (34) 写本台帳 |
| (17) 相 撲 | (35) 版本台帳 |
| (18) 諸礼并書簡 | |

分類の項目は以上ですべてではなく、ひきつづ
き例えば、「有職」、「仏書」、「經典及詩文」、「奇
談・怪談・故事」、「芝居物」、「吉原物」など古典
籍から庶民生活の末端にいたるまで広範な内容を
しめして、「俳書」、「連歌」、「追加」で終る。貸
本屋の商品ということでは大衆的な内容のものを
主体としていたには違ひなからうが、それでもこ

の時代の文化全体にかかわる「江戸のエンサイク
ロペディア」ともいっていい充実ぶりを示してい
るのがお判りいただけるだろう。

明治32年以降、きわめて簡略に記入された目録
が作成されているが、これは書庫における所在を
示すシェルフリスト的な役割りのものにすぎなか
った。「大惣本」と呼ばれるもののコレクション
としての価値はどうであるのか、ある書籍のそれ
ぞれの版本が江戸と上方に別れていた版元とどの
ようなかかわりをもって出版されたのか、もしわ
かればある一冊の書籍がどのような経緯で「大惣
本」に加えられることになったのか、その価格は
いかに低くであったのか、「大惣本」のなかにはか
なりの数の写本の存在が知られているが、それら
は大惣による収書の過程で偶然の結果として集
ったものなのか、コレクションの内容を充実させる
ため、意図的に写本を試みたものなのか、あるい
はよく知られた異版との比較、書き込み等の指摘
など——こういった出版史的あるいは書誌学的
な観点から、この貴重な文献群に対応することは
創設期にあって多忙をきわめた附属図書館には望
むべくもない作業であったにちがいない。従って、
昭和60年度から試みられた「大惣本」の調査、研
究にあたっては、できるだけこのような諸点を補
い、書誌学的な観点からの校訂、補註につとめた。
書名の単なる羅列ではなく、調査と研究を通じて
えられた書誌学的考察が加えられてきた。近くこ
の目録『京都大学蔵 大惣本目録』第一分冊(「随
筆」から「写本随筆追加」まで約1,230冊所収)
が刊行される予定である。

大量文献情報遡及変換入力システム研究会が 開かれる

現在、主として七大学が、共同で行っている
科学研究費(試験研究)による「大量文献情報遡
及変換入力システムの高度化に関する研究」の一
環として標記研究会が下記により行われた。

記

日時: 昭和62年12月23日(水)~24日(木)

場所: 京都大学附属図書館及び大型計算機セン
ター